

1 京都府自転車競技事務所（向日市）

【調査事項】

向日町競輪場のサービス向上の取組について

【調査目的】

向日町競輪場は、平成29年度から競輪場開催業務の包括民間委託を導入。
包括民間委託導入後の経営改善状況、サービス向上の取組を調査する。

【調査内容】

京都府主催のレースは、年間50日程度開催されており、このうち、約40日を向日町競輪場で開催。併せて平成30年度からは、奈良県営競輪場を借り上げて、収益向上に効果があるミッドナイト競輪（21時頃から23時過ぎまでの時間帯に無観客で行い、インターネットを通じて車券を販売）も10日程度開催。

平成29年度から、民間事業者のノウハウを活用して経営改善を図るため、車券の発売やファンサービス、施設管理等の業務について包括民間委託を導入。収支の改善に一定の効果が認められたほか、次のような自転車競技振興や来場者の裾野を拡げる取組が実施されており、少しずつではあるが、誰でも足を運びやすい開放的な競輪場になってきているとのことであった。

■バンク内での取組

- ・毎月、競輪選手の指導のもと、バンク走行体験やローラー練習会を開催。

■BMX練習コース（サイクルパーク京都）の運営

- ・上級者から初心者、子どもまで、レベルに応じた3種類の練習コースを設置。
土・日・祝日での自由練習のほか、子どもや初心者向けの教室を開催。
- ・東京2020オリンピック競技大会の正式種目であるBMXフリースタイルで活躍する中村輪夢選手も、サイクルパーク京都で技を磨いている。
- ・施設の柿落としも兼ねて、平成30年12月2日には「BMXフリースタイル Japan Cup 3 京都大会」を開催。

など

【主な質問事項】

- ・サイクルパーク京都等の収益性について
- ・国外各地域のSNS毎に対応した情報発信状況について
- ・北桑田高等学校自転車競技部等の利用や地元商店街との連携状況について など



概要説明を聴取した後、施設を視察



バンクを視察



BMXフリースタイル・パークコース
(サイクルパーク京都) を視察

2 一般社団法人森の京都地域振興社<森の京都DMO> (亀岡市)

【調査事項】

「森の京都」の推進及び「森の京都DMO」の取組について

【調査目的】

府域で展開する「もうひとつの京都」の一つである「森の京都」構想は平成28年度をターゲットイヤーとして策定され、その後の取組の深度化が図られているところ。

「森の京都DMO」の取組状況を聴取し、「森の京都」の関連施設を視察することにより、「森の京都」の推進状況を調査する。

【調査内容】

「森の京都DMO」は、「森の京都」構想に掲げる次の5つのねらいを実現するために、地域主導、民主導の観光地域づくりのけん引役として、平成29年3月に設立。

- ① 豊かな「森」の自然環境・景観の維持・保全
- ② 「森の京都」スタイルの生活を再定義・発信
- ③ 森の恵みや文化を体感・享受できる拠点・コンテンツづくり
- ④ 林業基盤を活かした成長・循環型林業の推進
- ⑤ 「森の京都」の魅力の効果的なプロモーション・観光誘客の推進

これまで、宿泊施設や飲食施設などへのヒアリングをはじめとするマーケティング調査・分析、国内エージェントはもちろん、インバウンド対応として海外へ赴きプロ

モーション及び販売促進に取り組んできた。

その結果、フランスのエージェントから17件延べ50名ほどのツアーの申し込みがあるなどの成果が出はじめている。

また、インバウンドも取り込んだ農村教育民泊を推進するとともに、着地型・体験型旅行商品や企画旅行商品の造成にも取り組み、多くの参加者を受け入れているところ。

今後は、消費額の大きな欧米や豪州等での現地プロモーションや、SNS等を活用した情報収集・情報発信など、更なる誘客や周遊の拡大を目指して、地域の稼ぐ力を創出するための取り組みを継続していくとのことであった。

また、現地調査では、南丹市の京都丹波高原国定公園ビジターセンターを訪れ、センターの運営状況のほか、訪問者への情報発信やガイドツアーの案内など、取組状況について調査を行った。

【主な質問事項】

- ・新しい総合計画における「森の京都」の取組と位置付けについて
- ・北陸新幹線延伸による森の京都地域への環境面の影響について
- ・森の京都DMOの中期経営戦略における具体的目標について
- ・外国人観光客の受入環境充実に向けた方策について
- ・観光消費額や周遊観光の拡大のためのビジターセンターの活用方策について など



概要説明を聴取



「森の京都」の取組の一つとして平成30年4月にオープンした京都丹波高原国定公園ビジターセンターを視察